

# 令和4年度第1回名張市障害者施策推進協議会 議事録

日時：令和4年11月9日（水）

午後1時30分から午後3時30分まで

場所：名張市役所 1階 大会議室

## ○あいさつ

会長挨拶

- ・今回の会議で一番重要なテーマはアンケートについて。事務局の案では大幅に削減する方向で提示されているが、各委員の判断をいただきながら、最終的に決めたいと考えている。本日もよろしくお願ひしたい。

福祉子ども部長 挨拶

- ・何かとご多用のところ令和4年度第1回名張市障害者施策推進協議会にご出席を賜り、感謝申し上げます。また、コロナ禍においてそれぞれのお立場で日頃より感染拡大防止対策にお努めいただいていること、さらに障害者福祉向上に向けて取り組みをいただいていることに厚く感謝申し上げます。
- ・名張市においては、障害のある人もない人もともに暮らしやすいまちづくりをすすめている。総合計画はもとより、この障害者基本法に基づく障害者福祉計画に関連した施策を総合的に推進している。現在の第五次名張市障害者福祉計画は令和5年度までが計画期間であり、施策を着実に推進していくために事業の評価やチェックを多角に行わせていただき、次の改善・行動へとつなげていきたい。本日は、障害者の実情把握のためのアンケートの確認と次期計画に向けた協議を賜りたいと考えている。
- ・最後までよろしくお願ひいたしまして、挨拶と代えさせていただきます。

## ○委員自己紹介

### ○協議会成立確認

会場出席5名、リモート出席7名、委員総数20名のうち計12名出席を確認  
名張市障害者施策推進協議会規則第4条に基づき、過半数を超えた出席のため、協議会は成立していることを事務局より報告する。

### ○議事

- 1、 第六次名張市障害者福祉計画（令和6～11年度・6年間）の策定について  
(1) 第五次名張市障害者福祉計画（2020（令和2）年度～2023（令和5）

年度) の取組状況

(2) 第六次名張市障害者福祉計画の期間

(3) 第六次名張市障害者福祉計画の策定に向けた方向性

(事務局)

- ・第六次名張市障害者福祉計画の期間及び計画の策定に向けた方向性について説明。

(会長)

- ・重層的支援の説明をしてください。

(事務局)

- ・他機関連携を行い、縦割りの支援ではなく横断的な支援を行っている。また、引きこもりの方等支援が難しい方については、居場所づくりとして、メイハンランド内のめばえファームにて農業に触れていただき、就労につなげていく取組を行っている。

(会長)

- ・障害福祉だけに限らず周辺分野の引きこもりやDV等の様々な課題が障害福祉の領域に絡んできており、障害の範囲も広がってきているため、今後も重層的な支援は必要となってくる。そのような状況の中でどのような計画を立てていくかということが重要であり、計画自体が重層的になっているか検討する必要がある。

(A 委員)

- ・民生委員をしていると、引きこもりや老々介護の問題に出会う。また、ヤングケアラ等新たな問題が出てきており、時代の流れが速いと感じる。第六次計画を立てた後にも、流れの中で新たに8050問題等の問題が出てくると考えられるため、時代の流れに沿うように途中でも変化に対応することが必要ではないか。

(会長)

- ・変化に対応するためにも、きめ細やかな会議の実施が必要である。時代の流れやニーズを反映するためにも、検討する機会を増やしていく必要がある。
- ・アンケートは使い方の程度によって価値が決まる。単純に項目が多いから削除するためではなく、必要なことは聞かないといけない。計画に反映されていなくても、将来的にアンケートの内容が活かされていることが重要である。前回の計画策定時の集計を準備してほしい。

(B 委員)

- ・価値観の変化がとても大きいと感じる。この3年のコロナ禍における家庭への影響が大きく出ており、ヤングケアラー等、子どもたちの状況をきめ細かくみている状況である。その中で家庭の置かれている状況や課題も変わってきていると感じるところがある。

(会 長)

- ・一昨日に開催した小委員会でも、家庭をどこまで位置付けるかが議論に挙がった。総合的な計画の中で、家族や家庭をどのように位置づけるかが重要なところだと考えている。
- ・各委員の皆様からお気づきの点があれば、遠慮なくおっしゃってください。この協議会のメンバーの中でもお互いに啓発し合うこと、学び合うことが大事だと考えている。

## 2、 計画見直しに向けた市民アンケートの実施、小委員会の開催

### (1) 市民アンケートの概要と、調査票の見直し(案)について

#### 性別欄について

(会 長)

- ・前回アンケートをもとに、事務局から今回アンケート案の提示があった。
- ・本人用アンケートから、特に削除された項目についてこれでよいのかを検討していきたい。
- ・共通した項目である性別について、セクシャルマイノリティへの配慮となるとなくす方向になるが、全ての統計値には性別は項目として入ってくる。セクシャルマイノリティへの配慮は、個人情報として取り扱う場合には十分に注意を払わなければならないが、アンケート調査は無記名であるため個人の特特定は行わない。そのため、前回の小学生用アンケートでは男女に加え、無回答を設定した。もし、障害者福祉の課題は性別に関係がないということであれば、性別は不要となる。

(C 委員)

- ・本人用は不要、介護者用・学生用は必要と考える。

(B 委員)

- ・学校現場では、性的マイノリティへの配慮として様々な議論をしている。性別をアンケートで聞くことについて、何のために聞くのかという意図をはっきりさせておく必要があると感じる。

(会 長)

- ・第1回アンケートから性別は聞いており、アンケート結果の中において男女で違いのある項目もあり、統計を取る上で性別は重要な項目ではないか。

(A 委 員)

- ・男女に限らず個人情報に過剰になっているところがあるのではないか。アンケートに関しても、十分に分析するためには男女は最低限必要なのではないか。

(D 委 員)

- ・アンケートの内容によって男女の傾向があるのはわかる。例えば、トイレの設置に関するアンケート等の男女の項目が不可欠であれば聞くこともあるかと思うが、性的マイノリティの方のことを考えると聞く必要はないのではないか。もしくは、無回答等の配慮が必要ではないか。

(会 長)

- ・性的マイノリティの方がどのように感じているのか、将来的には聞かなければいけない。
- ・事務局へ質問したい。前回のアンケートにおいて、男・女・無回答で支障があったのか。

(事 務 局)

- ・男女での調査結果の差異は認められず、支障はなかったと考える。

(会 長)

- ・以前は年齢と性別と障害種別をクロス集計していたが、現在の名張市の集計方法は単純集計のみで、色々な属性を問うていても何も反映されていない。クロス集計されてはじめてアンケートとして価値があるものになる。アンケートが十分に活用されていないのではないか。人員が足りない、集計する体制が整っていないことが大きな問題である。
- ・自由回答は新しい知見を得るために必要な項目である。その一方で、どのようにカテゴライズするかを考える必要があり、専門的な知識がないとカテゴライズが難しい。
- ・一番の問題は、事務局案では項目を削るとされているが、実際には活用されていないだけである。事務局のキャパシティの問題であれば、どうするのか考える必要がある。しかし、このアンケートは、今回の計画だけではなく、将来的な市全体の計画に関わってくるものであるため、目先のことで判断してはいけないと考えている。

(事務局)

- ・前回のアンケートでは、本人の回答率は56.5%で、設問が進むごとに回答率が悪くなっています。また、設問数が多いアンケートを実施することは、障害者虐待ではないかという意見があったため、今回は設問数を削減することを提案させていただきました。

(会長)

- ・虐待という意見が正当なのか判断する必要がある。案内文等で、アンケートの趣旨と回答できる項目について回答してくださいと十分に説明すれば事足りるのではないか。

(C委員)

- ・当事者として、前回は量が多すぎると感じた。また、当事者の方からそのような意見もよく聞く。付け加えてほしい項目もあるが、事務局案として示されている設問数がちょうどよいのではないかと思う。

(会長)

- ・少なれば少ないに越したことはないが、将来にわたってどのように活用されていくかを考える必要がある。設問数が多くてしんどいから設問数を減らすというのであれば、アンケート自体をやめてしまえばいい。アンケートを回答する人にも、これからの名張市の福祉がよりよいものになるようにしんどくても協力しようという思いがあってほしい。
- ・また、削除される項目について、必ずしも妥当ではない。

(E委員)

- ・設問数を大幅に削減するとアンケートの意味がなくなってしまうので、いっそのことアンケートをやめてしまえばいいという気持ちになる。セクシャルマイノリティの話が挙がっていたが、はっきりと聞けばよい。配慮ではなく、逆に差別になるきっかけとなるような気がする。セクシャルマイノリティの方にもアンケートの中で答えてもらえるような仕組みを考えていく方が、これからの考えても重要ではないか。

(B委員)

- ・子どもたちの中には、少数者に配慮していこうという動きがある。マイノリティに関し、そのような動きがあることは理解していただきたい。

(会 長)

- ・マイノリティの意見を吸い上げる方法やまたマイノリティがどのように考えているかを積極的に聞いていく必要がある。

(事 務 局)

- ・ご意見いただいたとおり、性別欄は「男・女・無回答」とする。
- ・また、前文で「答えられるところだけお答えください。項目数が多いと感じられるかと思いますが、名張の福祉の理想郷のためにご回答をお願いします」等と記載し、アンケートにできるだけご協力いただけるよう再考したい。

#### 年齢区分について

(会 長)

- ・前回のアンケートでも、世代間の差は顕著に出ている。事務局案はおおまかすぎるのではないか。

(副 会 長)

- ・事務局案は、アンケートの回答率を上げるために設問を削除すると説明があったが、工夫することで答えやすくなるのではないか。すべてを計画に反映できない等の理由があるが、計画に直接反映できなくても、現状を認識するためには必要な設問もあるのではないかと思う。一方で、市のデータで抽出可能であるものは削除してもよい。

(会 長)

- ・以前には、調査結果を冊子として作っていたが、経費削減か統計がとれないのかいつの間になくなった。紙ベースで残すべきものは残すべき。

(A 委 員)

- ・同じ状態であっても年齢によってしんどさは変わってくる。そのため、事務局案の年齢区分は大まかではないかと考える。

(事 務 局)

- ・ご意見いただいたとおり、年齢区分は前回アンケートのとおり修正する。

#### その他

(副 会 長)

- ・回答率が悪い設問は回答しやすいように見直す必要がある。

(E 委員)

- ・農福連携の範疇の中で就労分野をどのように取り上げていくかを考えてほしい。

(会長)

- ・赤字で削除した部分を再度検討してほしい。可能な限り意味のあるアンケートにしてほしい。
- ・基礎調査の報告書を作成し、可能な限り冊子にして施策推進協議会の委員には配ってほしい。

(2) 小委員会（領域別課題の検討会議）について

(会長)

- ・何のために小委員会を実施するのか、多面的に検討をしておしてほしい。

### 3、 その他

特にご意見等なし